

令和8年度 岡崎市現職研修委員会保健部 研究主題

「生きる力を育む健康教育の推進」

—自らの健康課題に気づき、主体的に課題解決に取り組む子供の育成—

1 主題設定の理由

近年、社会環境や生活様式の急激な変化は、児童生徒等の心身の健康に大きな影響を与え、肥満・痩身、生活習慣の乱れ、感染症の感染拡大、メンタルヘルスの問題、アレルギー疾患、薬物乱用などの課題が生じている。また、心身の不調の背景には、いじめや不登校、貧困などの問題が関わっていることもあり、児童生徒が抱える現代的な健康課題は、深刻さを増している。

令和4年12月の中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員の集団形成～」では、子供の多様性と社会の変化に対応するために、学校の管理職のリーダーシップの下、心理的安全性を確保し、教職員の多様性を配慮したマネジメントの実現とともに、学校の働き方改革の推進が必要であると示された。

養護教諭においては、令和5年1月に、文部科学省より「養護教諭及び栄養教諭の資質向上に関する調査研究協力者会議」における議論のとりまとめが公表され、求められる役割（職務の範囲）の明確化や職務遂行のインフラとしてICTの積極的活用等が提示され、今後の養護教諭の資質向上に向けての視点が示された。また、肥満・痩身や生活習慣の乱れ、アレルギー疾患、感染症、心の健康等の個別的課題にも対応できる専門性を生かして、校内での発信力を強化し、学校経営に積極的に参画するとともに、養護教諭と栄養教諭の連携も含め、他の教職員との連携により、児童生徒等への指導にも積極的に関わることが求められている。

一方で、養護教諭の業務負担が懸念される中においては、他の教職員との役割分担や連携、外部人材の活用やICTの活用等を推進、業務の効率化や最適化、更には得られる効果・成果の最大化を図ることが重要とされている。

健康教育については、近年、個に応じた指導・支援を充実させることにより、生涯を通じて心身ともに健康な生活を送るための資質・能力（健康リテラシー等）を育成することが求められている。学習指導要領においても、児童生徒等が変化の激しいこれからの社会を生きていくために必要な資質・能力の総称である「生きる力」を育むこととしている。健康教育を学校教育活動の中に位置付け、積極的に推進していく必要がある。

そこで、次代を担う子供が生涯を通じて心豊かに健康で生きるため、自ら課題に気づき、自ら学び、考え、判断して、主体的に課題解決のために行動できる子供の育成を目指し、本研究主題を設定した。

2 研究の課題

各校において、子供が抱える現代的な健康課題の解決に向けて、実態を明らかにした上で研究計画を立案することが必要となる。評価方法についても事前に検討し、RPDCサイクルを生かした研究実践となるように努めたい。また、学校内及び地域の関係機関、養護教諭同士で連携し、健康教育の在り方について研究を深めたい。